

# 「地理総合」シラバス

学科	普通科	学年	1年	類型		組	1～4組	単位数	2
使用教科書	新地理総合（帝国書院）、新詳高等地図（帝国書院）								
副教材等	新編地理資料（東京法令出版）、サクシード地理（啓隆社） 地理総合・探究ワークブック（愛媛県高教研地歴・公民部会）								

## 1 学習の到達目標

- ① グローバル化や情報化、少子高齢化など、急激な社会の変化を地理的な視点で捉えながら、平和で民主的な国家及び社会を形成するために必要な資質・能力を身に付ける。
- ② 現代世界における地理的認識を深めながら、地理的技能や地理の見方・考え方を習得する。
- ③ 主体的に社会の形成に参画する態度を身に付ける。

## 2 学習評価

次の三つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとめりごとに、下記の評価項目により評価をする。学年末において、観点別評価を5段階の評定に総括する。

知識・技能	我が国及び世界の生活・文化の地域的特色や防災、地域的・地球的課題への取組などに関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けているか。	(1) (2) (6) (7)
思考・判断・表現	現代世界の地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養っているか。	(1) (2) (5) (6) (7)
主体的に学習に取り組む態度	現代世界の地理的諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしているか。	(3) (4) (5) (6) (7)
評価方法	主な評価項目	
ペーパーテスト	(1) 定期考査 (2) 小テスト	
学習状況の観察	(3) 毎時間の授業への取組 (4) 地理的事象に関する興味・関心	
発表	(5) 調査方法・発表資料及び内容	
課題レポート	(6) 調査方法、表現方法	
ノート	(7) 学習内容の効果的なまとめ	

3 学習の計画

学期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	評価項目
一 学 期	<p>第1部 地図でとらえる現代世界</p> <p>第1章 地図と地理情報システム 1節 地球上の位置と時差 2節 地図の役割と種類</p> <p>第2章 結び付きを深める現代世界 1節 現代世界の国家と領域 2節 グローバル化する世界</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図と地理情報システムに関する諸事象を理解し、それらの事象を多面的・多角的に考察し、表現するとともに、そこでみられる課題を主体的に追究しようとする。</li> <li>・結び付きを深める現代世界に関する諸事象を理解し、それらの事象を多面的・多角的に考察し、表現するとともに、そこでみられる課題を主体的に追究しようとする。</li> </ul>	(6) (7)  (6)
	<p>第2部 国際理解と国際協力</p> <p>第1章 生活文化の多様性と国際理解 序説 生活文化の多様性 1節 世界の地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活 追究事例 自然①・②</p>		
二 学 期	<p>3節 世界の言語・宗教と人々の生活 追究事例 宗教①・②</p> <p>4節 歴史的背景と人々の生活 追究事例 歴史①～③</p> <p>5節 世界の産業と人々の生活 追究事例 産業①～③</p> <p>第2章 地球的課題と国際協力 1節 複雑に絡み合う地球的課題 2節 地球環境問題 3節 資源・エネルギー問題 4節 人口問題 5節 食料問題 6節 都市・居住問題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球的課題と国際協力に関する諸事象を理解し、それらの事象を多面的・多角的に考察し、表現するとともに、そこでみられる課題を主体的に追究しようとする。</li> </ul>	(6) (7)
三 学 期	<p>第3部 持続可能な地域づくりと私たち</p> <p>第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境 2節 地震・津波と防災 3節 火山災害と防災 4節 気象災害と防災 5節 自然災害への備え</p> <p>第2章 生活圏の調査と地域の展望 1節 生活圏の調査と地域の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境と防災に関する諸事象を理解し、それらの事象を多面的・多角的に考察し、表現するとともに、そこでみられる課題を主体的に追究しようとする。</li> <li>・生活圏にみられる諸事象を理解し、それらの事象を多面的・多角的に考察し、表現するとともに、そこでみられる課題を主体的に追究しようとする。</li> </ul>	(6) (7)  (6) (7)

備考 (1) (2) (3) (4) (7)については、全ての単元において評価項目として用いる。